

「バラ園」

マスク生活で3度のお正月を過ごしましたが、植物は何事もなかったように花の咲き誇る季節を迎えています。

絵は5月中旬の神奈川県横浜市の「港の見える丘公園」の風景です。公園の名が普通とは少し違っているので、由来について触れてみます。当地は幕末の横浜開港でフランスとイギリスの軍が駐留し、太平洋戦争後は進駐軍に接収され、接収解除後は国有地となっていました。1962年、横浜市は当地を国から無償で借り受け風致公園として開園しました。この開園式に使った曲の名が「港の見える丘」で、名前の由来となっています。当時流行した曲のように、公園が多くの人に親しまれることを願った命名だったのでしょうか。

公園は標高約35mで、横浜ベイブリッジを擁する港に近接した素晴らしい景観の中にあります。園内は咲き誇ったソメイヨシノの花に替わり約330種、2,000本近くのバラが主役を務め、色や香りで散策する人達を楽しませます。これらのバラ即ちモダンローズ（近代のバラ）は19世紀に始まった西洋種と東洋種の交雑の繰り返しで作出されました。交雑の原種は7、8種と考えられていますが、日本に自生するハマナス、ノイバラ、テリハノイバラの3つも原種と言われ、多くの品種改良に使われてきました。野生バラも大切にしたいとなりますね。

花は、大きく描く時は比較的それらしくなりますが、小さな特に咲き乱れた花をそれと分かるように描くことは筆の遅い者には時間の掛かるものでした。皆さんに“バラだと分かる”と思って頂いたら嬉しいです。



菊岡 保人

Size: 530×455mm (F10)

